

経食道心エコーによる脊髄血流評価法の検討

1. 研究の対象

2023年4月～2025年11月に、高知大学医学部附属病院で心臓や大動脈の手術を受けられた方。

2. 研究目的・方法

大動脈瘤や大動脈解離に対する外科手術は数10年前に比べ格段に安全で確実になってきましたが、なかには脳梗塞や脊髄傷害のため寝たきりになったり下半身不随で車椅子生活になる方があります。このような合併症は、手術中に見えないところで想定していない血流の障害が起こることが原因で、それにすぐ気づいて対策を立てるためのモニターを用いています。例えば、脳の血行障害を知るため額にセンサーを貼って近赤外線ですべての脳をモニターする方法、頭から脊髄を通して足に刺激が届いていることをチェックするモニターなどです。しかし、それぞれに特有な盲点や限界もあるためモニターしていても気づかなかったり判断に迷うこともあるのが現状で、直接脊髄の血流状況を知る方法が必要とされています。

このような課題の解決に向け、私たちは新たな方法を開発しようと考えています。それは、特殊であたり大がかりで身体にストレスがかかるような方法ではなく、心臓の手術中にいつも使っている経食道心エコー（食道内からのエコー）を使って脊髄を直接見るという方法です。こういった方法は試みが始まったばかりですが、どれくらい見えるものなのか、よく見えない場合は何が原因なのかということも明らかになっていないため、研究を計画しました。2023年4月～2025年11月に高知大学医学部附属病院で行われた心臓血管外科手術で脊髄の描出を試みた記録を見返すとともに、CT画像を解析してそれらと関連付けます。この研究により、合併症の回避に少しでも役立つ方法が開発できるよう期待しています。

研究期間は倫理委員会で承認された日から2027年3月31日までですが、データを利用する予定日は2026年4月1日からです。

3. 研究に用いる情報の種類

検討に用いるのは電子カルテに保存されている基本情報、CT 画像データ、エコー記録などですが、いずれも個人を特定されない形で検討を行います。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することもできますのでお申し出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部 連繋医工学分野 渡橋和政（研究責任者）

[TEL] 088-888-2022 [e-mail] orihashik@kochi-u.ac.jp